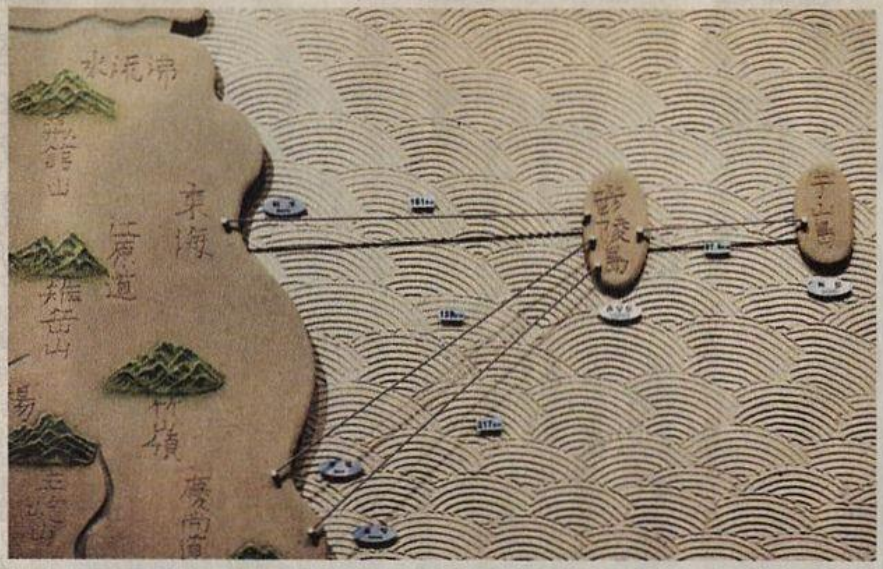
韓国の博物館

「竹島」の位置 歪曲認める

レリーフ撤去へ

韓国が実効支配している日本固有の領土、竹島（韓国名・独島）を、「韓国領」だとアピールするため韓国政府が、朝鮮半島沖にある鬱陵島に建設した「独島博物館」に展示されているレリーフについて、同館は史料と食い違っていることを認め、近く撤去することを明らかにした。レリーフは韓国の古地図をもとに、竹島が韓国領だと視覚的にわかりやすく示すために製作された同館のシンボル的展示だが、以前から日本人研究者らが「悪質な史実の歪曲（わいきょく）だ」と指摘していた。



㊤独島博物館の入り口に展示されているレリーフ。鬱陵島の西隣にあるはずの于山島が、竹島の位置に＝韓国・鬱陵島

㊦「八道総図」を忠実に再現した独島博物館前の石碑（部分）。于山島は鬱陵島の西にある

于山島
鬱陵島
東海
慶尚道

レリーフは、朝鮮半島と鬱陵島、そして韓国が「竹島を指す」と主張している「于山島」などを単純化して描いたもので、1481年に完成した朝鮮の地誌『東国輿地勝覧（よちしょうらん）』に所収されている古地図「八道総図」をもとに製作。1997年8月の開館当初から入り口近くに展示されている。

韓国側は、「八道総図」が、日本側が竹島領有権主張の論拠とする『隠州視聴合記』（1667年）より200年近く古いことから、この図を領有権主張のよりどころにしており、同館のパンフレットの表紙にも印刷。同館近くの石碑などにもこの地図が刻まれている。

ところが、地図では鬱陵島のすぐ西隣に于山島が描かれているのに対し、レリーフでは竹島の位置に于山島を配置。さらに、鬱陵島から竹島までの実際の距離を鬱陵―于山島の距離として表示しており、「于山島＝竹島」を印象づける展示となっている。

産経新聞の取材に対し、同館の研究員（30）は、位置が違う理由は「来館者がより見やすいように」と説明したが、「日本の研究者からクレームが多く、紛争の火種になるので近く撤去する予定だ。年内には別の展示に取り換える」と語り、レリーフを撤去する方針を明らかにした。同館が事実上「誤り」を認めたのは初めてで、今後どう対応するかが注目される。

于山島は、実際には鬱陵島の東沖2・2㌔にある「竹嶼（ちくしょ）」との見方が定説。文献によれば、「八道総図」が描かれたころは、韓国側は鬱陵島と于山島の区別がつかず、違う島かどうかの認識もない状態だった。また、同図以前の1431年に編纂（へんさん）された『太宗実録』には1417年、「于山島から15家族86人を連れ出すことになった」との記述がある。竹島は飲料水のない岩礁の島で、それだけの人間が暮らすことは不可能だ。

竹島問題に詳しい下條正男・拓殖大教授の話　「于山島が竹嶼であることは日本側がずっと主張し、レリーフの誤りも指摘してきたが、これまで相手にもされなかった。博物館という公的機関による虚偽展示の影響は計り知れず、本当に取り換えるなら正しく取り換えるかが興味深い」

于山島　古地図に記載されている朝鮮半島東沖の島の名称で、現在の地名にはない。1481年に編纂（へんさん）された朝鮮の地誌によると、鬱陵島はかつて于山国（うさんこく）と称し、512年に新羅に帰属後、高麗、朝鮮へと引き継がれた。韓国側は于山島は、現在の竹島のことで、同年から韓国領であると主張。一方、日本側は鬱陵島の東沖2・2㌔にある「竹嶼」が有力としている。18世紀に描かれたとされる韓国の古地図には「所謂于山島　海長竹田」とあり、于山島には竹が生えていると記載。しかし、竹島は岩礁の島で、竹が生える場所はない。

平成19年（2007）年5月5日（土）、産経新聞大阪本社版